

Q1 この資格ではどのくらい英語を話せないといけないのか。

A1 本制度では、大学入試等で利用される [CEFR\(セファール\)](#)という指標を利用し、アクティビティガイドであれば B1 相当(例:英検2級)以上、スルーガイドであれば B2 相当(例:英検準1級)以上を目指すべき目標としている。スルーガイドは B2 相当以上を認定の要件としているが、アクティビティガイドについては資格を取らなければならないということではなく、スルーガイドと連携して対応したり、手元に英訳案内のラミネート資料を用意したり、といったことも考えられる。

なお、AT ガイドの認定申請書に自身の英語レベルを3段階で評価する欄があるので、ここでどの程度対応できるか表明していただきたい。この記載をもとに、本年度中に整備を予定しているガイドデータベースで英語対応のレベルを表示したいと考えている。

Q2 推薦者責任を問われることはあるか。

A2 現時点では推薦対象のガイドがトラブルを起こしたとしても、推薦者の責任とすることは考えていない。あくまでトラブルを起こしたガイド自身のみが責任を負う。

ただし、仮に全く経験の不足しているガイドをノーチェックでどんどん推薦するなど資格制度の信頼性や旅行者の不利益になるような行動が見られる場合、個別に以後の推薦を認めないといった対応はあり得る。

Q3 推薦者は推薦を依頼された場合、自身の判断で推薦の可否を判断して良いか。

A3 問題ない。

Q4 アドベンチャートラベラーはどういった流れで申し込みが来るのか。

A4 基本は海外のエージェントと国内エージェントの B to B 取引の中で取引に結びつくものと考えている。本年度開催する ATWS は AT の国際 B to B イベントであり、ATWS 開催を契機としてリピーター化し、直接取引となれば良い。

Q5 推薦者として旅行会社が入っていても良いのでは。

A5 制度創設時においては、北海道観光審議会の有識者の皆様やワーキンググループに参加いただいたガイドの方等のご意見を基に、マスターガイドや民間資格の検定員等を推薦者として設定した。しかし、本制度は創設後3年間を試行期間と位置づけており、いただいたご意見等改善が可能な点については、今後検討を行いたいと考えている。

Q6 分野が違うガイドを推薦できるのか。分野が違う場合、分野の合うマスターガイドに推薦を依頼するよう指示すべきか。

A6 基本的には同じ分野でと考えているが、推薦者にご判断いただきたいのはそのガイドが日常的にガイドとして活動しているかという点が大きく、地域の中で付き合いのあるマスターガイドがいらっしゃる場合は、分野が異なっても推薦いただくことは可。分野によって押しつけ合うよりは、判断できるのであれば声をかけられたマスターガイドさんをご対応いただくということをお願いしたい。

※注意※

北海道アウトドアガイド資格の 5 分野であれば分野をまたいだ推薦が可能だが、バック(サイド)カントリー、サ

イクリング、SUP は認定団体が異なり、要綱上推薦者が分野毎に設定されていることから、それぞれ個別に推薦を要する。

Q7 認定区分ごとの従事日数(要綱別表2参照)について、準備期間も日数に含んでよいか？

A7 準備期間も含むものとする。

この Q&A は、寄せられたご質問等への回答をとりまとめたものです。内容は随時更新します。